

横手市議会定例会

所信説明

平成26年9月

目次

1. はじめに.....	1
2. 新たな施策等への取組みについて.....	3
(1) (仮称)横手北スマートインターチェンジ設置事業について.....	3
(2) 果樹産地強靱化対策事業について.....	4
(3) 「横手ファン通信」の発行と「横手の心を贈ろう運動」の展開支援について	4
(4) LED街路灯ESCO(エスコ)事業について.....	6
(5) 横手市水道事業及び下水道事業のビジョン策定について	6
(6) 増田まんが美術館について	7
(7) 横手市スポーツ競技大会出場補助金の制定について.....	8
(8) 「日本スポーツマスターズ2016秋田大会」の開催について	9
3. 平成26年度事業等の進捗状況について	10
(1) 次期総合計画について	10
(2) JR北上線利用促進について.....	11
(3) 国民文化祭について	12
(4) 普通交付税について	13
(5) 窓口における利便性の向上について	14
(6) クリーンプラザよこて整備及び運営事業について.....	15
(7) 「子ども・子育て支援新制度」施行への対応状況について.....	16
(8) 若者の雇用対策について	17
(9) 農地中間管理事業の推進について.....	17
(10) 農業雪害対策事業について.....	18
(11) 「売れる農業」の推進について.....	19
(12) 実験農場フィールドデーの開催について	20
(13) 横手ブランド推進事業について.....	21
(14) 小学校統合事業について.....	22
4. 補正予算について.....	23
5. おわりに.....	24
※行政一般報告編.....	25

平成26年9月横手市議会定例会の開会にあたり、市政運営に関する基本的な考えとして所信を述べさせていただくとともに、当面する市政の重要課題についてご説明申し上げ、市民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

1. はじめに

今年は春以降天候に恵まれ、また心配された7月上旬の台風8号や今月上旬の台風11号の影響も、当市においてはほとんど受けることなく、農作物の生育は順調に推移しております。

稲については、茎数が多く出穂も早まっているため、平年以上の収穫ができるものと期待しているほか、当市における夏の主力農産物でありますスイカについては、大きさ、糖度も十分とこのことで市場での知名度と評価が年々高まっているように感じております。

また、エダマメも好天により実の入りがよく、高品質が期待されておりますので、遅出しの品種など10月中旬頃まで続く出荷に向けて、品質の管理や販売流通の拡大に取り組んでまいります。

今後、米や果樹の収穫期に入りますが、実りの秋に繋げるとともに、ここ数年連続している豪雪に対し、農作物への被害をできるだけ少なくするため、今から万全な予防対策について関係機関との連携を図りながら進めてまいります。

さて、国内の経済状況について、安倍首相は8月上旬の会見で「景気回復の風は日本の隅々まで行き渡っているとは言えない、地方の創生こそが『アベノミクス』の第2弾の大きな柱であり、スピード感を持って実行していかなければならない。」と述べ、秋の臨時国会の最重要テーマと位置付ける地方創生に向けて、法案を準備していることを明らかにしました。

そのうえで、9月には第2次安倍政権発足後、初めての内閣改造を実施する意向を固めており、経済成長を地方へ波及させるための司令塔となる地方創生担当大臣を新たに置く考えを示しております。

「人口減少」の課題については、毎日のように報道で取り上げられておりますが、簡単にはその解決策は見つかりません。

「横手だからこそ」の幸福感を味わってもらうためには「横手ならではの」といった独自の基準を持ち、「夢あふれる田園都市」に住んでいるというありがたさを、市民の皆様一人ひとりがもっと実感していただくことで元気になり、豊かさや幸せ、さらには「横手のブランド力」へと繋がっていくものと考えます。

10月11日には、当市において那珂市との今後の発展と繁栄を願う「友好都市提携10周年記念式典」を開催いたします。

当日は、10年前の友好都市締結の日に生まれた児童が書いた「友好未来メッセージ」の発表や物産販売などで交流を深めるほか、

本番を迎える国民文化祭においても、本市ならではの文化や食などの魅力を、那珂市長はじめ訪れる多くの皆様に知っていただき、横手を応援してくれるファンが増え続けていくよう「横手モデル」を全国に発信してまいります。

2. 新たな施策等への取組みについて

(1) (仮称)横手北スマートインターチェンジ設置事業について

市内猪岡地区に設置を目指しております(仮称)横手北スマートインターチェンジにつきましては、6月30日に国土交通省やネクスコ東日本などの関係機関に対し事業計画書を提出し、7月25日付けで新規採択されております。

これを受け、7月31日には国土交通省に対して連結許可申請書を提出し、8月8日付けで許可通知をいただいたところです。

今後は、ネクスコ東日本との事業実施に関する基本協定を基に住民説明会など事業着手へ向けた準備を進め、平成31年3月の完成に向けて事業を進めてまいります。

なお、事業費につきましては、現在も関係機関を含め協議中ではありますが、今年度に行う部分の事業費に不足額が生じる見込みとなるため、今議会に補正予算を計上しております。

(2) 果樹産地強靱化対策事業について

4年連続の雪害からの一日も早い果樹産地の復興を目指し、6月補正予算において果樹産地強靱化対策事業を新設しましたが、今回はその第2弾として、土づくりによる樹体の強化対策を事業の中に組み入れました。

一つ目は、酸性化が年々進み、劣化している土壌の改良を図るため、樹園地に投入する苦土石灰などの資材の購入と散布に対する補助金であります。これにより、良質な果実の生産と雪害に負けない果樹産地の形成を目指してまいります。

また、二つ目として、大雄堆肥センターが製造する有機肥料「ニュー・スーパーコン」の購入費用に対して補助することとし、土づくりにより雪の被害樹の回復や若い木の育成を積極的に進めながら、果樹産地の強靱化を図ります。

なお、今議会にこれら2つの支援にかかる補助金の補正予算を計上しております。

(3) 「横手ファン通信」の発行と「横手の心を贈ろう運動」の展開支援について

物産振興として、二つの新たな施策を行うことといたしました。

一つ目は、首都圏各ふるさと会の会員の皆様を対象に、首都圏で

開催されるイベント情報と昔ながらのお店情報などを載せた「横手ファン通信」を発行することで、各会員の皆様には、この通信情報を基に首都圏で開催されるイベントでのご支援をいただくと同時に、横手製品の需要拡大にもご協力いただこうとするものであります。

「横手ファン通信」につきましては、その第1号を作成し、既に発行しておりますが、会員の皆様からは非常に良い評価をいただいております、ぜひとも継続するよう激励の言葉もいただいているところであります。

今年度は第2号まで作成する予定であります。来年度からは発行回数を増やし、さらにお力をいただけるよう進めてまいります。

次に二つ目は、横手市物産団体連絡協議会における「横手の心を贈ろう運動」の展開支援であります。

これは、横手から発送される贈答品などに送り主のメッセージを入れた、ふるさとらしさをデザインした「しおり」を同封し、送り主の心を込めたものとしてお届けするものであります。

これにより、ふるさとに対する思いを深めていただき、横手の温かさを感じ取っていただきたいと考えております。

この運動を実施することにより、横手製品への更なる需要喚起と地域物産振興の活性化を図ってまいります。

(4) LED街路灯ESCO※(エスコ)事業について ※Energy Service Company

市が管理する100ワット以下の街路灯約1万1,400灯をエスコ事業の手法によりLED化することといたしました。

エスコ事業とは、事業者が省エネの提案や設計施工、資金調達、灯具の交換などを行い、市に対して省エネの効果を保証するとともに維持管理に係る全ての業務を包括的に実施するものであります。

契約期間は10年間を想定しており、契約期間終了後には灯具が無償で市に譲渡されることとなります。

エスコ事業の実施にあたっては、現状の維持管理費の範囲内での事業実施が可能なうえ、維持管理経費の圧縮も期待できることから、財政的効果は大きいものと考えております。

なお、今議会にエスコ事業の契約に係る債務負担についての補正予算を計上しております。

(5) 横手市水道事業及び下水道事業のビジョン策定について

水道事業及び下水道事業を取り巻く国内の状況は、急激な人口減少、少子高齢社会の到来や東日本大震災の発生により大きく変化しております。

これを受けて国では、従来のビジョンを見直し、将来を見据えた水道の理想像となる「新水道ビジョン」を策定し、下水道事業では

長期的な未来像としての目標を明確にするため「新下水道ビジョン」を策定しております。

当市においては、水道事業が抱える重要な課題に対処するため、新たに「横手市水道事業ビジョン」を策定することとし、国が示している「安全な水道」「水道サービスの持続」「強靱な水道」という3つの観点を参酌し、「水道事業のマスタープラン」という位置付けの下に、今年度より2カ年で策定いたします。

また、下水道事業においては、中期の未整備地区の整備手法の再検討と、既に整備済の区域の連携や統合を含めた長期の運営管理手法の選定などの具体的な整備計画の基になる「横手市下水道中長期ビジョン」の素案を今年度中に取りまとめ、来年度には策定、公表することとしております。

(6)増田まんが美術館について

当市の名誉市民である漫画家の矢口高雄先生から、ご高齢であることや健康問題などの理由により、ご自身の全作品の原画を生まれ故郷である当市に寄贈し、今後のまんが文化の振興と横手のまちづくり等に活用して欲しいとの申し出をいただきました。

市としては、このご意向を受け入れることとし、今後は矢口先生が中心となり、秋田県出身の漫画家の先生方が設立を目指している

財団法人に市も出資し、財団法人と共に貴重な文化的財産の保存と活用を図っていくことが必要と考えます。

今後の具体的な保存と活用方法につきましては、議員の皆様や市民の皆様と協議してまいりたいと考えております。

なお、今議会に財団法人設立への出資金などについての補正予算を計上しております。

(7)横手市スポーツ競技大会出場補助金の制定について

当市におけるスポーツの普及と振興、競技力の向上、出場選手の経済的負担の軽減を図ることを目的として、「横手市スポーツ競技大会出場補助金」制度を創設し、7月末から運用を開始しております。

具体的には、小・中学生は東北大会以上、高校生や一般社会人は全国大会以上に出場する市民の方々に対し助成するものであります。

これまでは、小・中学校体育連盟が主催するもの以外においては、東北大会以上に出場するスポーツ少年団加入者のみに限られておりましたが、スポーツ立市の趣旨に鑑み、この制度を拡充、改善したものであります。

これにより、横手市の代表選手としての自信や誇りを持っていただき、当市のPRにもご協力をいただきながら、地域の競技力の

向上はもとより、スポーツに取り組んでいる方々にとって、さらなる夢と希望が持てるよう支援してまいります。

(8)「日本スポーツマスターズ2016秋田大会」の開催について

昨年11月、「日本スポーツマスターズ2016」を秋田県で開催することが正式に決定し、これを受けて当市では市体育協会及び関係競技団体と連携を図りながら、開催地の誘致活動を展開してまいりました。

この度、県より軟式野球及びバドミントン競技の2種目について、当市を開催地とする内定をいただいたところであります。

日本スポーツマスターズは、シニア世代のスポーツ愛好者の中でも競技志向の高い方々を対象としたスポーツの祭典であり、参加者がお互いに競い合いながらスポーツに親しむことで、生涯スポーツのより一層の普及と振興を図り、併せて生きがいのある社会の形成と健全な心身の維持向上に大きく寄与するものであります。

軟式野球、バドミントンの2競技とも全国から約800人の参加者が見込まれ、全国規模の大会を誘致することにより、参加する大会関係者への、おもてなしを通じた地域経済の活性化や市民の方々との交流の機会も生まれるものと考えており、今後開催に向け、関係団体と連携しながら準備を進めてまいります。

3. 平成26年度事業等の進捗状況について

(1) 次期総合計画について

現総合計画は平成18年度から10年間の計画期間となっており、平成27年度で満了となります。これを受けて、平成28年度から10年間の期間とする次期総合計画の策定に着手いたしました。

これに先立ち、6月には「まちづくりアンケート」を実施し、現総合計画の内容と進み具合について評価をいただいたところであります。今回のアンケート調査は、無作為に抽出した18歳以上の市民の皆様約3,000人を対象に行い、有効回答数は1,068人、回収率は36パーセントでありました。

また、市内の高校に通学する高校生約600人を対象としたアンケート調査も同時に行っており、次期総合計画を策定するための大切なご意見として参考にさせていただきます。なお、これら調査結果については、市のホームページで速報版を公表しております。

次期総合計画の策定体制については、有識者や市民代表、各団体の代表など19人の委員で構成する総合計画審議会を置き、7月17日には委員に委嘱状を交付し、第1回目の会議を開催したところであります。

また、実際に計画の策定作業を行う総合計画策定委員は、公募による市民の委員18人と市職員32人の合計50人で構成し、7月

から2回の策定委員会を開催し、基本構想の策定作業を開始しております。

計画の策定には一定の期間を要するため、今後も随時その進捗状況についてお知らせしてまいります。

(2)JR北上線利用促進について

7月30日にJR北上線の維持と利用促進を目的に、沿線の自治体と各種関係団体で構成する「JR北上線利用促進協議会」が設立されました。

近年の道路網の整備やモータリゼーションの発達により、鉄道の利用者数は年々減少してきており、北上線ではJR東日本が発足した昭和62年当時と比べ、約7割減少している状況にあります。

北上線は、東北新幹線の乗り継ぎ路線として横手市と首都圏を結ぶ重要な路線であるとともに、沿線住民の方々の生活路線としても重要な役割を果たしております。

沿線の当市を含む北上市、西和賀町、そして観光分野の各団体やJR東日本など関係機関が連携し、一丸となって北上線の存在をアピールし、地域の方々にもご協力いただきながら、いろいろな視点で利用促進を図ってまいりたいと考えます。

(3) 国民文化祭について

いよいよ「第29回国民文化祭・あきた2014」の開催が間近となりました。

7月には出演団体やゲストなどが確定し、事業チラシやポスターを掲出しており、現在はプログラムの作成を進めております。

8月からは全県一斉にシンボルカラーであるウェルカムグリーンののぼり旗の設置や、テレビでのCM放送を行うなど、周知宣伝活動にも取り組んでおります。

また、9月からは主要道路や会場周辺に看板などを設置するほか、9月4日には1ヶ月前イベントを行うなど、開催に向けた機運を益々盛り上げてまいります。

国民文化祭は、10月4日に県の開会式とオープニングフェスティバルで幕を開け、本市では、10月1日から始まる「国際マンガフェスティバル in アキタ」を皮切りに、計8事業12イベントを開催いたします。

このうちの一つとして「後三年合戦^{えことば}絵詞の世界」を、10月4日から11月3日まで秋田県立近代美術館で開催し、国の重要文化財「後三年合戦^{えことば}絵詞」を中心に、この時代の刀剣や^{えびす や なんざん}戎谷南山の作品、^{けいとくじ}金沢の桂徳寺の^{くろぼとけ}黒仏など、地元の後三年合戦ゆかりの文化財を秋田県立近代美術館や日本美術刀剣保存協会、地元の方々からの

提供やボランティアのご協力をいただき展示いたします。

なお、これに連携した特別展を「後三年の役金沢資料館」や「雄物川郷土資料館」でも開催することとしております。

また、国民文化祭応援事業として市内の小学生が演じる、後三年合戦をモチーフにした創作子ども歌舞伎「御存知後三年蛙會戦」^{ごぞんじごさんねんかえるかつせん}を10月14日に「雄物川民家苑木戸五郎兵衛村」で上演することとなっており、出演する子ども達は晴れの舞台を目指し、一生懸命稽古に励んでおります。

国民文化祭には、県内外から多くの出演者や観客が訪れ、イベントによっては国外からのゲストも訪れます。当市における出演者は約4千人であります。観客も含めた人員は延べ約9万6千人と想定しており、全市を挙げて歓迎し国民文化祭の成功に向けて万全を期してまいります。

(4) 普通交付税について

平成26年度の普通交付税が決定され、臨時財政対策債を加えた実質的な普通交付税額は、221億9,158万3千円で昨年度の交付決定額と比較して、1億5,334万2千円の減額となっております。

このうち、普通交付税については、202億6,294万1千円

で、前年度比1億862万6千円の減額、臨時財政対策債の発行可能額については、19億2,864万2千円で、前年度に比べ4,471万6千円の減額となっております。

今回の減額は、消費税率のアップに伴う地方消費税交付金の増額や景気回復に伴う税収増が見込まれたことにより、地方交付税総額が削減されたことが影響したものであります。

なお、今回の算定額は、旧8市町村がそのまま存続した場合における普通交付税を合算する「合併算定替」によるものであります。これを本来の1本算定にした場合と比較しますと、臨時財政対策債を加えた実質的な普通交付税で約45億2千万円が加算されております。

この普通交付税の合併算定替特例は、平成27年度までの措置であり、平成28年度から5年間の激変緩和措置期間を経て、平成33年度には加算が終了します。このことを踏まえ、今後も事業の選択と集中、公共施設の適正な再配置の検討、職員の定員適正化計画に基づく人件費の抑制などを継続して推進してまいります。

(5)窓口における利便性の向上について

日中は来庁できないお客様のため、7月から市民課窓口において、試行的に毎週水曜日午後7時まで時間を延長して証明書を交付して

おりますが、利用されたお客様からは「続けて欲しい」との好評を得ていることから、試行期間内における状況を検証しながら、10月の本稼働に向け検討したいと考えております。

また、同じく7月から実施している条里南庁舎での一部証明書の交付につきましても、ほぼ毎日利用されている状況であります。

今後もサービスのPRを行いながら、市民の皆様の利便性が向上するように努めてまいります。

(6)クリーンプラザよこて整備及び運営事業について

クリーンプラザよこての施設整備につきましては、現在、熱回収施設の2階部分とリサイクル施設の基礎部分の各種工事を行っております。また、工事の進捗に合わせてプラント機器の据付工事も行っており、7月末現在における進捗率は10.1パーセントで、順調に推移しております。搬入路の整備につきましては、現在、市道新藤柳田1号線しんどうやなぎだの舗装工事に着手しており、年内に完成の予定となっております。

今後は、焼却炉本体や発電設備などの大型機械の搬入が予定されており、地域住民の皆様や付近を通行される皆様にご迷惑をおかけすることのないよう、引き続き安全対策に万全を期してまいります。

次に、新たなごみの分別区分への移行に向けた取り組みについて

であります。これまで各地域の地区会議や横手地域内の町内会を中心に説明会を行っております。また、試行収集は横手地域と山内地域の一部で実施しており、概ね順調に推移しております。

さらに新たなごみの分別収集への移行を促進するため、年度内の試行収集にご協力いただける地域について速やかに実施するため、今議会に補正予算を計上しております。

(7)「子ども・子育て支援新制度」施行への対応状況について

平成27年度から施行される「子ども・子育て支援新制度」に向け、今年度は条例に基づく「子ども・子育て会議」を6回開催する予定であり、このうち既に開催された2回の会議では「子ども・子育て支援事業計画」の年度内の策定に向けた「教育・保育等提供区域の設定及びニーズ量の見込みとその確保の方策」について検討していただいたところであります。

また、現行の次世代育成支援地域行動計画を包含した形での計画策定を予定していることから、継承すべき事業についても検討いただいております。

引き続き計画策定に向けてご審議いただくとともに、今後は幼稚園や保育所等の利用定員についてもご審議いただくこととなります。

なお、今議会に新制度施行に向けた、学童保育や保育所等の運営

基準等に関する 3 件の条例案を提案しております。

(8)若者の雇用対策について

ハローワーク横手管内における 6 月末現在の有効求人倍率は、0.73 倍となり、前年同月に比べ 0.15 ポイント上回りました。この数値は全県平均より 0.06 ポイント下回ってはいるものの、平成 21 年以降、上昇し続けております。

また、去る 6 月 11 日には、横手商工会議所、よこて市商工会、そして市内の主要企業 2 社に対し、ハローワーク横手や県平鹿地域振興局、横手地区高校長会が合同で新卒者についての積極的な求人の確保を要請いたしました。

今後も新卒者等の正規雇用を行った市内の事業者に対し、育成にかかる研修費を助成し、一人でも多くの若者が地元に着するよう、ハローワーク横手などの関係機関と連携し取り組んでまいります。

(9)農地中間管理事業の推進について

農地利用の集積や集約化などを狙いとした「秋田県農地中間管理機構」が設立され、相談窓口などの業務を横手市農業再生協議会が受託し、各地域局と J A 秋田ふるさとで 7 月 1 日から申込書の受付を開始しております。

農地の借り受け希望者の公募は、7月1日から31日まで行い、260件、1,207ヘクタールの応募がありました。

また、農地の貸し出し希望については7月1日から通年で受け付けることとしており、8月1日現在で150件、161ヘクタールの申請を受けております。

現在、市とJA秋田ふるさとが農地の受け手と出し手の交渉を行っており、交渉がまとまると11月には県の公告を経て受け手農家へ農地が貸し出されることとなります。

なお、2回目の借り受け希望者の公募を、11月1日から予定しており、市としましてはJA秋田ふるさとや農地中間管理機構など関係団体と連携し、貸し出し希望についても制度の周知に努めながら、事業を活用した農地利用の集積や集約化を推進してまいります。

(10) 農業雪害対策事業について

平成25年度の大雪による被害の復旧支援につきましては、農業施設の復旧支援事業に295人、果樹の補植や改植、樹体修復などの樹園地等再生支援事業に266人が申請しております。

現在、国や県に対する事業承認の申請手続きを行っているところでありますが、この春以降に事業申請された方々への事業承認が大変遅れております。これは、この度の雪害が東日本の広い範囲で

発生したため、国が補助事業の対象としている農業施設等の被害や事業費などの把握に時間を要しており、事業承認が遅れていることによるものであります。

国では、今後、申請件数の多い市町村で現地調査を実施したうえで事業承認するとしており、当市は県内の申請件数のほぼ半数を占めることから、国の調査対象となるものと見込んでおります。

市といたしましては、こうした国の現地調査を受けながら早期に事業が承認され、補助金が交付されるよう県を通じて国に働きかけてまいります。

(11)「売れる農業」の推進について

首都圏や仙台圏において、スイカを中心とした横手市農産品のPR販売を集中的に行っており、8月2日と3日には、百貨店やスーパーなどで、私も県やJA秋田ふるさと職員、生産者と一緒にPR販売を行ってまいりました。

また、自らの農産物をより有利な販売に結び付けたいという意欲のある農家を対象に、7月と8月に、インターネットを活用した商取引の方法や、商談会への参加に向けたセミナーを初めて開催しております。参加いただいた農家の皆様には、自らの農産品の説明や販売交渉、ネットによる発信など交渉力や販売力のスキルアップ

に取り組んでいただいております。

11月には、農産品や加工品を取り扱う県内外のバイヤーなどを招聘しての商談会を開催し、セミナーを受講された方やたくさんの農家の皆様に参加いただく予定としており、多くの商談が成立するよう、今後も支援対策に努めてまいります。

(12) 実験農場フィールドデーの開催について

めまぐるしく変革する農業環境の中で、農家が抱えている諸問題の解決と、実験農場で栽培を実証している園芸作物の試験品目を広く公開することにより、農家の経営安定に向けた取り組みのきっかけになればとの思いから、「実験農場フィールドデー」を8月20日に開催し、多くの農家や市民の方々が訪れました。

当日は、市内直売会の会員向けに売れる農産物についての講演会を行ったほか、JA秋田ふるさとや県平鹿地域振興局、市農業委員会などの協力を得ながら、6次化事業の進め方や農地中間管理事業、作物の栽培技術、経営資金など様々な相談を受けたところがあります。

また、農場の農産品による試食コーナーでは、生産者と消費者の交流も活発に行われ、横手の食と農を実感していただく一日となりました。

今後も相談活動を行うとともに、横手の「食と農の発信基地」としての役割を果たすべく事業を展開してまいります。

(13)横手ブランド推進事業について

横手産農産物や加工品の認知度を高め売上げの拡大を図るため、「横手ブランド推進事業」に着手しております。

今年度は、ブランド化にあたっての基本戦略を策定することとしており、コンサルティングを委託するため、自治体のブランド化に豊富な実績を有する東京都に本拠を置く業者を、先ごろプロポーザルにより選定したところであります。

今後、横手市のモノや風景、歴史など地域資源の洗い出しや、首都圏など外部の人々が横手市に抱くイメージの調査などを経て、柔軟な発想を持つ様々な職種の若手や女性を中心にワークショップを立ち上げ、ブランド化の取組み方針を協議し基本戦略を定めたいと考えております。

なお、このブランド化の事業につきましては、計画策定からブランド構築の実践まで5年程度の年限を見込んでおります。

(14) 小学校統合事業について

平成27年度の開校に向けて建設中の雄物川小学校につきましては、現在、体育館棟の屋根工事、普通教室棟と管理棟の2階部分のコンクリート打設工事、特別教室棟の1階部分のコンクリート打設工事を行っております。8月上旬における進捗率は約34パーセントで、順調に推移しております。

同じく平成27年度開校予定の大雄小学校につきましては、校舎南側の足場が解体され、新たに塗装された外壁が姿を現しております。現在は、増築教室棟の内装下地工事、既存校舎棟の防水工事や床、壁などの改修工事を行っており、8月上旬の進捗率は約62パーセントとなっております。

なお、平成28年度に開校予定の横手北小学校につきましては、先の市議会8月臨時会での契約議案の議決を受け、建設工事に着手したところであります。

これら統合小学校の開校に向けた準備状況につきましては、7月までに各統合校の児童の保護者に対する説明を行っております。

また、横手地区につきましては、未就学児童の保護者に対する説明会を今月中には終了し、今後も開校に向けて準備を進めてまいります。

4. 補正予算について

今議会に提案しております一般会計補正予算についてご説明申し上げます。

今回の補正は、臨時福祉給付金給付費、ごみ収集費、経営体育成支援事業、果樹産地強靱化対策事業、スマートインターチェンジ設置事業などが主な内容となっております。

補正額は4億4,186万円で、補正後の予算総額は563億240万円であります。

主な事業を申し上げますと、

◎ 住民情報系運用管理	1,614万5千円
◎ 臨時福祉給付金給付費	4,800万円
◎ ごみ収集費	1,744万円
◎ クリーンプラザよこて整備事業	594万5千円
◎ 経営体育成支援事業	9,429万2千円
◎ 果樹産地強靱化対策事業	939万円
◎ スマートインターチェンジ設置事業	1,660万1千円
◎ 公債償還元金	8,965万6千円
◎ 減債基金積立金	3,814万4千円

などであります。

5. おわりに

今議会に提案しております案件は、同意案件 3 件、諮問案件 4 件、専決処分報告案件 5 件、継続費精算報告書の報告案件 2 件、条例の制定など条例関係 6 件、財産の取得案件 1 件、繰入額の変更議案 1 件、平成 26 年度一般会計補正予算案など補正議案 6 件、平成 25 年度一般会計歳入歳出決算の認定など決算認定 25 件の合計 53 件であります。

以上、よろしくご審議くださいますようお願い申し上げまして、所信説明といたします。

行政一般報告編

～ 6月議会定例会以降の行事等について ～

平成26年6月議会定例会以降の行政一般報告

目 次	P.
(1) Bizサポートよこての拡充について	27
(2) 平成26年度地域版「東北地域の車を考える会」inよこてについて	27
(3) 京都太秦物産展について	27
(4) 世田谷区民まつりについて	27
(5) 横浜市自主文化事業委員会事業について	28
(6) 放課後子ども教室について	28
(7) 成人式について	28
(8) 後三年の役金沢資料館等の月曜等開館の実施について	29
(9) 後三年合戦沼柵公開講座について	29
(10) 市民スポーツ交流大会(グラウンド・ゴルフ)について	29
(11) 横手わか杉カップについて	29
(12) 友好都市スポーツ交流事業(厚木市訪問団受け入れ)について	29
(13) 楽天イーグルス「未来塾」について	30
(14) バドミントンクイーンズサーキット2014横手大会について	30
(15) 平成26年度バスケットボール女子日本代表第3次強化合宿について	30
(16) 合宿誘致事業について	31
(17) 横手カップバスケットボール大会の開催について	31
(18) 科学お楽しみ広場について	31
(19) 横浜市小児生活習慣病予防対策について	31
(20) 横手学校給食センターの見学会について	32
(21) 子ども読書環境整備事業について	32
(22) 横手川水辺のふれあいフェスタ紫陽花回廊まつりについて	32
(23) 第11回よこての全国線香花火大会について	32
(24) 増田の景観・まちなみを考えるつどいについて	33
(25) 増田まんが美術館夏の特別企画展について	33
(26) あやめまつりについて	33
(27) あやめ杯民謡大会について	34
(28) 平鹿地域協働のまちづくり会議について	34
(29) 第43回雄物川駅伝競走大会の実施について	34
(30) わくわくフェアinおものがわの開催について	34
(31) 第13回横荘線メモリーウォーキングの実施について	35
(32) 海産物フェア(海と山との直売所交流事業)について	35
(33) は・は・は祭りについて	35
(34) 関東地区大森町ふるさと会について	35
(35) 首都圏十文字会について	36
(36) 第42回十文字さくらんぼまつりについて	36
(37) 第36回猩々まつりについて	36
(38) 中尊寺ハスの開花について	36
(39) 夏のクリーンアップ(夏季道路一斉清掃)について	37
(40) 山内地域観光わらび園について	37
(41) 2014大雄サマーフェスティバルについて	37
(42) たいゆう緑花園について	37

平成26年6月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
商工観光部	<p>(1)Bizサポートよこての拡充について</p> <p>7月1日、民間ビルの1階に開設していた「Bizサポートよこて」を同ビルの2階に移転し、貸事務室を2部屋から5部屋に増設しました。移転後、新たに1社が入居し、現在は3社が営業しています。</p> <p>今後は入居者の安定経営に資するよう支援し、また1人でも多くの方が起業出来るよう、情報提供や相談等について積極的に取り組んでいきます。</p>
	<p>(2)平成26年度地域版「東北地域の車を考える会」inよこてについて</p> <p>7月18日、県内では初となる「東北地域の車を考える会」を東経連ビジネスセンター、秋田県、県南工業振興会との共催のもと開催しました。これは国内自動車メーカーと県内のものづくり企業が有する高い技術や製品のマッチングを図ること、更にはメーカーとの交流・連携の実現を目的に実施したものです。</p> <p>当日はメーカーの開発関係者を迎え、県内7社のプレゼンテーション、講演会及び情報交換会を行い、企業27社に行政等関係者を加えた85人に参加いただきました。</p> <p>プレゼンテーションでは将来的にメーカーとの取引を期待できる製品・技術が発表されるなど、市内企業の新たなビジネスチャンスにつなげることが出来たと考えています。</p>
	<p>(3)京都太秦物産展について</p> <p>7月10日から12日、京都市太秦の大映通り商店街において「大魔神が秋田の土産を持って帰ってきた展」を開催しました。大映通り商店街にある地域シンボル「大魔神」像が秋田に、県庁の「なまはげ」像が京都に交換展示されたことを機に実施に至ったものです。期間中は、十文字の「さくらんぼ」を空輸することで、旬の味を直接PRするとともに、横手の物産(葡萄ジュース、地酒、漬物、横手やきそば等)を大々的に販売することが出来、食の宝庫としての印象を持っていただくことが出来ました。</p> <p>また、今回の物産展では大映通り商店街振興組合や京都秋田県人会の協力をいただくことが出来、京都との人・物の交流の可能性が広がりました。</p> <p>京都では東北や秋田県の物産展開催は少なく、今回の物産展を契機に交流を深め、京都のみならず関西圏をターゲットにしたPR活動の実施に向けた取り組みを進めていきます。</p>
	<p>(4)世田谷区民まつりについて</p> <p>東京都世田谷区で開催される自治体交流イベント「世田谷区民まつり」が8月2日、3日の日程で開催され、横手市の土産を持って参加しました。</p> <p>この世田谷区民まつりには、旧増田町、旧横手市が参加していたことから合併後も継続して参加しています。長年参加してきた経緯もあり、リングジュースを箱買いする方や多くの地酒を購入する横手市出身者の方も多く、ふるさと横手に触れることの出来る機会として毎年楽しみにされていました。また、自治体交流イベントでもあることから、県内から参加の羽後町や東北の各地、沖縄県宮古島市など多くの自治体との交流も出来ました。</p> <p>今後も継続して参加し、物産販売はもとより、世田谷区や参加自治体との交流を深め、横手市を全国にPRしていきます。</p>

平成26年6月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
教育委員会	<p>(5)横手市自主文化事業委員会事業について</p> <p>横手市民会館を会場に、下記の自主文化事業委員会主催・共催事業を実施しました。</p> <p>【主催事業】</p> <p>①『大坂昌彦スペシャル・ユニット“Knock Out Standards”Jazz CONCERT』 7月5日 横手市出身で、日本のジャズドラマートップの座につく大坂昌彦さんをリーダーとしたスペシャル・ユニットの公演を実施しました。アンケートでは「迫力ある生演奏に感動した」との声をたくさんいただきました。 入場者数:402人</p> <p>【共催事業】</p> <p>①劇団文化座公演『少年(スーホ)と白い馬』 6月12日 モンゴル民話「スーホと白い馬」を、劇団文化座代表の佐々木愛さんの朗読とモンゴル国立民族歌舞団アンサンブルの演奏とのコラボレーションで上演しました。また、公演に先立ちモンゴル国立民族歌舞団アンサンブルの皆さんが横手南小学校を訪れ、民族楽器の演奏や歌などで児童と交流を深めました。入場者数:206人</p> <p>②『週末よしもと「お笑い祭りin横手」』 7月13日 ベテラン芸人から若手まで、テレビ等で活躍している7組の芸人が地域ネタなどをふんだんに織り込んだトーク(話術)や芸を披露し、観客を楽しませました。入場者数:234人</p>
	<p>(6)放課後子ども教室について</p> <p>放課後子ども教室を、夏休み期間中の7月25日から8月22日の月・水・金曜日、11日間開催しました。</p> <p>これは、小学生が放課後や長期休業時に自主学習や体験活動で過ごせるための教室を設置し、子どもの健全育成を図ることを目的としています。</p> <p>市では今年度「増田子ども教室」が新たに加わり、「横手南」、「朝倉」、「旭」、「浅舞」、「雄物川」、「大森」、「十文字」、「山内」、「大雄」の10カ所、全地域での開設となりました。コーディネーターや教育活動サポーターをお引き受けいただいた地域の方々のご協力をいただき、無事に終了することが出来ました。</p>
	<p>(7)成人式について</p> <p>恒例の横手市成人式を、8月15日に横手市民会館で開催しました。今回の対象者は、平成5年4月2日から平成6年4月1日までに生まれた方1,031人で、当日はこのうち780人の参加がありました。</p> <p>「Never ending story ～今、始まる第二章～」をテーマに、新成人は責任ある自立した社会人として、さらには社会に必要とされる人間として貢献することを誓い合いました。</p>

平成26年6月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
教育委員会	<p>(8)後三年の役金沢資料館等の月曜等開館の実施について</p> <p>資料館等を休館日も開館してほしいとの声に応え、後三年の役金沢資料館、雄物川郷土資料館、石坂洋次郎文学記念館については7月から休館日も開館しています。秋の国民文化祭本番に向けて、より多くの観光客に横手市の文化的資産をご覧いただけるものと思います。</p>
	<p>(9)後三年合戦沼柵公開講座について</p> <p>7月26日に雄物川コミュニティセンター及び雄物川郷土資料館で、後三年合戦沼柵公開講座を開催しました。今回は、雄物川地域づくり協議会や雄物川地域活動の会「まち協」と連携しての開催で、これまでにない157人の参加をいただきました。</p> <p>雄物川郷土資料館で開催中の特別展「田んぼの下から 縄文時代・古墳時代のムラ」の展示解説と、青森県教育庁の根岸洋氏、盛岡市教育委員会の室野秀文氏らの講演による二部構成で、郷土の歴史について理解を深めていただきました。</p>
	<p>(10)市民スポーツ交流大会(グラウンド・ゴルフ)について</p> <p>6月23日、赤坂総合公園グラウンド・ゴルフ場を会場に、スポーツ推進委員会が主体となり、例年の規模を拡大して市内8地域からフリーに参加を募り、健康増進や親睦を図ることを目的に、市民スポーツ交流大会(グラウンド・ゴルフ)が開催されました。当日は、約300人の市民愛好者がグラウンド・ゴルフのプレーを通じ、地域間の交流を深めました。</p>
	<p>(11)横手わか杉カップについて</p> <p>今年で7回目となる「横手わか杉カップ」を7月5日から7日の3日間、雄物川体育館で開催しました。全国の強豪校8校が参加し、“煌めく青春 南関東総体2014”の前哨戦として注目される中、熱い戦いが繰り広げられ、地元の雄物川高校が市民の期待に応え、スポーツ立市宣言を記念するかのよう粘りのプレーで悲願の初優勝を飾りました。3日間で延べ約3,000人の観客数となり、訪れた市民及びバレーボールファンに多くの感動を与えました。</p> <p>また、期間中は市内の中学校男子バレーボールチームを対象に、インターハイの出場校指導者によるバレーボールクリニックも開催しました。</p>
	<p>(12)友好都市スポーツ交流事業(厚木市訪問団受け入れ)について</p> <p>7月6日に行われた「第93回平鹿町マラソン兼あやめマラソン大会」に、友好都市である神奈川県厚木市から引率を含め4人の選手団が参加しました。当日のレースでは、一般男子10kmの部に参加した厚木市の選手が見事に優勝し、沿道の観客からも熱い声援で迎えられました。レース後には、秋田ふるさと村や増田のまちなみなどを案内したほか、特産品などを堪能いただき、横手市の観光資源をPRすることが出来ました。</p>

平成26年6月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
教育委員会	<p>(13)楽天イーグルス「未来塾」について</p> <p>7月9日、午前中は植田小学校で4、5、6年生34人が、午後からは雄物川北小学校を会場に雄物川北、南、福地小学校の4、5、6年生と保護者220人が参加し、楽天球団職員を講師とした「未来塾」を開催しました。</p> <p>講師は、秋田市出身のゴールデンエンジェルス(楽天球団チアガールズ)の藤原かの子氏。「プロ野球の仕事」、「友達、恩師の大切さ」や、自分が子どもの頃にどんな夢や目標を持ち、どのように実現してきたかなどの実体験をお話しされ、子どもたちに「夢、目標を持つことの大切さ」を伝えていました。</p>
	<p>(14)バドミントンクィーンズサーキット2014横手大会について</p> <p>7月18日から20日にかけて、全日本ランキングポイントを争うオープン大会である「バドミントンクィーンズサーキット2014横手大会」を横手体育館で開催しました。各実業団チームや超高校級の実力を持つ高校など、全国各地から48人の女子選手が参加し、熱戦を展開しました。</p> <p>大会2日目の競技終了後には、市内外の小学生が参加してのバドミントンクリニックが行われ、日本リーグ各チームの監督・コーチや選手たちが指導を行いました。この大会は、同じ時期に来年度も横手市を会場に開催することが確認されました。実業団や高校各チームの監督・コーチからは、「サーキット事業の受け入れに関し、横手市は非常に協力的で感激している。スポーツ立市を掲げているという意気込みを感じる」との感想をいただきました。</p>
	<p>(15)平成26年度バスケットボール女子日本代表第3次強化合宿について</p> <p>7月22日、23日の2日間、世界選手権大会とアジア競技大会に臨むバスケットボール女子日本代表の強化合宿が横手体育館を会場に行われました。合宿は一般公開され、期間中は県内外より延べ2,000人のファンが訪れ、Wリーグ等で活躍するトップ選手の練習風景を間近で見学しました。</p> <p>最終日には、練習終了後に体育館を後にする選手たちを、訪れた観客全員でハイタッチして別れを惜しむなど、これからの「スポーツ立市よこて」を盛り上げるかのような、感動的なシーンとなりました。</p> <p>また、23日には市内中学校バスケットボール部女子選抜選手24人を対象に、アジア競技大会の出場選手、スタッフらによるマンツーマンのバスケットボールクリニックも開催されました。スター選手を前に、緊張気味の中学生たちでしたが、次第に打ち解けた雰囲気になり、常にハイタッチなどで声を掛け合うなど、笑顔と歓声の溢れるクリニックとなりました。参加した中学生からは、「初めは緊張したけど、普段の練習とは違う練習のやり方で面白かった。普段の練習にも生かしたい」との感想がありました。</p> <p>クリニック終了後、アジア大会代表チーム一色建志ヘッドコーチから講評をいただき、「皆さん一人ひとりに可能性がある。夢を持ち、この中から2020年のオリンピックを目指す選手が出てくることを期待したい」と熱いメッセージが贈られ、中学生の皆さんも感激していました。</p>

平成26年6月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
教育委員会	<p>(16)合宿誘致事業について</p> <p>8月2日からの中央学院大学硬式野球部を皮切りに、8月末までの約1か月間にわたり、大学硬式野球部などの夏季合宿がグリーンスタジアムよこてを会場に行われました。</p> <p>今年新たに誘致に成功した神奈川大学硬式野球部や、4年目となる日本体育大学硬式野球部のほか、高校球界の強豪校である神奈川県慶応高校と宮城県東北高校などが当市を訪れました。</p>
	<p>(17)横手カップバスケットボール大会の開催について</p> <p>8月7日から10日まで、横手体育館を会場に横手清陵学院高校男子バスケットボール部が主催、市・市教育委員会が共催する「横手カップバスケットボール大会(高校バスケットボールサマーキャンプ)」を開催し、関東・東北圏内の7校と市内の2校の計9校でリーグ戦を行いました。</p> <p>これまでに横手清陵学院高校と慶應高校との深い交流があり、その実績と市側の合宿誘致の働きかけが実を結ぶかたちで今回、県バスケットボール協会並びに市バスケットボール協会などのお力添えにより実現したものです。今後も、お互いの交流と競技力向上に向け、意義ある大会として継続していきよう働きかけていきます。</p>
	<p>(18)科学お楽しみ広場について</p> <p>横手市立朝倉小学校で7月28日、平成26年度横手市科学お楽しみ広場を開催しました。これは、児童の科学に対する興味・関心を高め、観察・実験やものづくりなどの活動に親しむ機会を充実させるとともに、本市理科担当教員を中心とする理科教育研究会会員の指導力向上を図ることを目的として行われたものです。</p> <p>当日は、市内の小学3年生以上の児童190人が参加し、「音で遊ぼう」など、12のブースからそれぞれが選択した観察・実験に取り組みました。特に、液体窒素を使った実験「-196℃の世界で遊ぼう」のブースでは、一瞬で凍り付いたテニスボールがガラスのように割れる様子に歓声が上がりました。各会場では、「やってみたい」「つくってみたい」という意欲に満ちた児童の生き生きとした活動が見られるとともに、「はじめて知った」「不思議だった」等の感想が寄せられました。また、指導者として博士号をもつ大曲工業高等学校の須田宏先生や秋田大学特認教授石橋研一先生の協力を得ながら、教師同士の情報交換も活発に行われました。</p>
	<p>(19)横手市小児生活習慣病予防対策について</p> <p>子どもが抱える高血圧や糖尿病など小児生活習慣病の予防対策を充実させていくため「横手市小児生活習慣病予防対策委員会」を設置し、1回目の会議を6月30日に開催しました。医師会、学校、保育所、行政などが連携し、健康診断や食事調査、肥満傾向児の個別指導、医療機関での受診など、それぞれが行っている事業や課題を共有し、子どもや保護者への啓発に取り組むことを確認しました。</p>

平成26年6月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
教育委員会	<p>(20)横手学校給食センターの見学会について</p> <p>横手学校給食センターには、「新センター内の見学、食育勉強、試食」を目的に5月29日から夏休み前の7月17日まで、小学校の親子での見学会などで10団体(見学者述べ人数:403人)が見学に訪れました。</p> <p>初めて見る横手学校給食センターの設備の大きさに驚くとともに、施設内の研修室において献立や栄養等について勉強し、美味しい給食を食べて楽しい一時を過ごしていただいています。</p>
	<p>(21)子ども読書環境整備事業について</p> <p>本事業では、今年度からの「横手市子ども読書活動推進計画」の実施を踏まえ、子どもが本を手に取り読みたくなる環境を作ろうと、市立図書館の児童書で汚破損の激しいものの更新を行っています。</p> <p>先ず、傷みの激しい本の多い横手図書館と十文字図書館で実施し、2館合わせて約3,500冊の児童書を新しくしました。これは、金額にして約550万円、本事業費の66%にあたります。両図書館とも新しくなった本の特設コーナーを設けて夏休みの子ども達に披露したところ、好評で次々と手に取って読む姿がありました。残りの4館の更新図書を選定・発注もスタートし、予定では、年末までに本事業は終了します。</p> <p>今後は、これらの図書も利用して、入園前の子どもに適した絵本のリストを作成し、健康相談等の機会に保護者へ情報提供するなど、子どもたちの生涯に渡る読書活動に繋げていきます。</p>
横手地域局	<p>(22)横手川水辺のふれあいフェスタ紫陽花回廊まつりについて</p> <p>7月13日、「第5回横手川と紫陽花に親しむお茶会」が本町観音寺の鐘撞堂下の広場において開催されました。当日はおよそ100人の参加者があり、市内の茶道関係者、横手城南高校、横手南中学校茶道部の皆さんのご協力により、横手川沿いを紫陽花で結ぶ「紫陽花回廊」の中で優雅にお茶会を楽しみました。なお、こうした長年の地域環境美化運動の取組みが評価され、「横手川紫陽花回廊運動株主会」が、今年度の環境大臣表彰を受賞しました。</p>
	<p>(23)第11回よこての全国線香花火大会について</p> <p>7月19日の夕方から横手川蛇の崎川原において、「第11回よこての全国線香花火大会」が開催されました。ときおり小雨の降る天気でしたが、高校生を中心に約200人のボランティアスタッフに支えられながら、昨年を上回る5,500人の来場者があり、川原に子どもたちの元気な歓声が響き渡る中、国産線香花火特有の繊細で可憐な光があふれる、情緒豊かな夏のイベントとなりました。</p>

平成26年6月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
増田地域局	<p>(24)増田の景観・まちなみを考えるつどいについて</p> <p>昨年12月27日、増田のまちなみ約10.6haが国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、今年に入ってから観光客数が前年比約3倍の28,000人と、大幅に増加しています。</p> <p>現在、保存地区周辺部を含めた、より広範な区域での一体的で良好な景観創出に向けて住民や事業者が意識を高めていくための啓発事業を実施しています。全国のこうした事例に詳しい弘前大学教育学部の北原教授の助言を受け、「増田の景観を育てるプロジェクト」と銘打って平成24年度から学習会を重ねてきました。これまでに9回開催した住民学習会には延450人余の住民・事業所・市職員が参加しており、少しずつ景観やまちなみを見つめ直す機運が生まれてきています。加えて平成25年度からは、次代を担う中学生にも地域の将来を考えてもらおうと、増田中学校の総合学習の中で増田のまちなみと景観を見つめ直す活動に取り組んでいます。</p> <p>また、横手市景観計画に基づく「景観重点地区」の指定に向け、関係町内への説明会を開催しました。</p> <p>(25)増田まんが美術館夏の特別企画展について</p> <p>増田まんが美術館では、夏の特別企画展「最初で最後の大原画展IKKI(イッキ)」を、7月26日から8月24日までの約1か月開催しました。</p> <p>月刊誌「IKKI(イッキ)」は、小学館が2000年に創刊し、大森町出身の土田世紀先生も連載していた本市にも縁のある雑誌で、独自の切り口でマンガの持つ可能性を追求し、数々の名作・話題作を輩出してきました。</p> <p>今回は、原画展はもちろん、漫画家の先生方を交えたトークイベントやサイン会も開催することが出来、ご来館の皆様には、盛夏のひとつきを「熱く」過ごしていただきました。</p>
平鹿地域局	<p>(26)あやめまつりについて</p> <p>6月28日から7月6日までの9日間にわたり、第33回浅舞公園あやめまつりが開催されました。5月下旬からの好天続きで開花が進み、まつり当初から花の見頃を迎えたことや、今年から増田、十文字、平鹿地域の連携事業として無料巡回シャトルバスを実施したこと、JR東日本秋田支社との連携により日帰りパック旅行を実施したことなどにより、昨年を大幅に上回る約58,000人の来場者で賑わいました。</p> <p>期間中は、吉田小学校のドリル演奏やよさこいソーラン踊りなどの様々なイベントに加え、地元商工業者によるテント村が設置されてまつりを盛り上げたほか、イベントスタッフとして県立衛生看護学院の学生、平成高等学校、平鹿中学校の生徒合わせて95人が参加し、ボランティア活動であやめまつりを支えてくれました。</p> <p>また、あやめまつりの開催を前に、浅舞公園周辺道路のクリーンアップを実施し、周辺地域の住民や各団体から113人が参加しました。その結果、約40kgのごみを拾い集めて地域の環境美化を図り、あやめまつりにお越しいただいた方々を気持ちよく迎えることが出来ました。</p>

平成26年6月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
平鹿地域局	<p>(27)あやめ杯民謡大会について</p> <p>第24回あやめ杯民謡大会が7月21日、平鹿生涯学習センターで開催され、約350人の来場者で会場は満席となりました。</p> <p>大会には県内外から87人の参加があり、81人が参加した一般の部は湯沢市の金子未希さんが優勝し、6人が参加した年少の部は男鹿市の目黒菜々香さん(10歳)が優勝しました。</p> <p>県民謡連盟公認のこの大会は新人歌手の登竜門として評価されており、今年も県内外からの関係者との交流を深めながら大いに賑わいました。</p> <p>(28)平鹿地域協働のまちづくり会議について</p> <p>7月2日、平鹿生涯学習センターにおいて、各集落自治会長、消防団、民生児童委員、地域婦人会、地域局合わせて67人が参加し、平鹿地域協働のまちづくり会議を開催しました。少子高齢化など地域が抱える多岐な課題の解決に向け、集落自治会と行政が協働で、活気あふれる暮らしやすい地域社会を築いていこうとする意識の共有と、積極的な実践について、意見交換を行いました。</p> <p>また、同会議において平鹿地域雪対策連絡会議を併せて開催し、平鹿地域における雪に関する課題について意見交換を行いました。</p>
雄物川地域局	<p>(29)第43回雄物川駅伝競走大会の実施について</p> <p>6月29日、雄物川陸上競技場をメイン会場として、第43回雄物川駅伝競走大会を開催しました。参加チームは、オープン参加の横手明峰中学校陸上部を含む20チーム。全長17.3kmのコースを、地域や職場で結成された6人の選手が襷をつなぎ、健脚を競い合いました。</p> <p>選手たちは沿道からの大きな声援を受けて懸命にゴールを目指し、全ての力を出し切っていました。なお、優勝は「砂子田」チームで見事4連覇を果たしました。</p> <p>(30)わくわくフェアinおものがわの開催について</p> <p>7月21日、雄物川河川公園において、「第6回わくわくフェアinおものがわ」を開催しました。当日は好天に恵まれ、雄物川河川公園は約3,000人の来場者で賑わいました。来場者はカヌー体験やイワナの掴み取り等で水と自然にふれあい、地元特産のスイカの振る舞いに舌鼓を打っていました。また、消防車の試乗や放水体験に行列ができ、飛び入りゲスト「くまモン」の登場に会場からは歓声が沸いていました。</p> <p>なお、会場では「第25回雄物川グラウンドゴルフ大会」が67人の参加で同時開催され、午後からは高校生による「第4回ミニ電気自動車レース」が開催されました。</p>

平成26年6月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
雄物川地域局	<p>(31)第13回横荘線メモリーウォーキングの実施について</p> <p>7月21日、横荘線廃線跡の二井山～老方間を散策する「第13回横荘線メモリーウォーキング」が開催されました。この事業は、平成13年に横荘線廃線30年を記念して、雄物川町明道塾・雄物川町山岳会が主体となって立ち上げたものです。</p> <p>当日は市内各地から約50人の参加があり、由利本荘市側と合わせて102人が横荘線の往時を偲びながらウォーキングを楽しみました。</p>
	<p>(32)海産物フェア(海と山との直売所交流事業)について</p> <p>雄物川地域づくり協議会の「海と山との直売所交流事業」として、にかほ市金浦の物産館「にかほ陣屋」とタイアップした海産物フェアが開催されました。</p> <p>8月3日は雄川荘内ほほえみ直売所で旬の岩ガキや干物などを販売、えがおの丘や雄川荘でもカキを使った限定メニューを提供しました。</p> <p>8日は、は・は・は祭りで海産物を販売し、海の幸が雄物川町で食べられるということで好評でした。</p> <p>また10日には、にかほ陣屋で雄物川町スイカフェアを開催し、特産品であるスイカや野菜を販売して雄物川町の味をPRしました。</p>
	<p>(33)は・は・は祭りについて</p> <p>賑やかで華やいだ真夏の行事として定着している「は・は・は祭り」が8月8日に開催されました。</p> <p>今宿商店街を歩行者天国にした会場では、よさこいソーランやマーチングバンド、2013全日本なまりうたトーナメントで優勝した佐藤正昂さんが所属する「ケースケ&マサ」のステージ、様々な夜店などが祭りを盛り上げ、多くの人出で賑わいました。(来場者 3,500人)</p>
大森地域局	<p>(34)関東地区大森町ふるさと会について</p> <p>6月29日、東京都上野で第31回関東地区大森町ふるさと会が開催され、会員や関係者約100人が参加しました。</p> <p>総会では地域局との更なる連携を確認、懇親会では県内出身テノール歌手による楽しいアトラクションやふるさとの特産品に会話も弾み、最後は「故郷」の合唱で大いに盛り上がりました。</p>

平成26年6月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
十文字地域局	<p>(35)首都圏十文字会について</p> <p>7月5日、東京都台東区の浅草ビューホテルを会場に第29回首都圏十文字会総会が開催されました。市内からの参加者を含め、180人を超える参加があり、横手高校OBを中心に結成されたブラスバンド「YOKOTE HEROS」による演奏も華を添えて、盛会となりました。</p> <p>今年度は、十文字地域づくり協議会委員も多数参加し、ふるさとを離れて何十年を経てもなお、思いを寄せていただいている会員の皆様と交流を深めていました。地域づくり協議会の会長も新たに首都圏十文字会の役員に選任され、今後更にふるさとの情報提供と会員との親睦交流に努めていきます。</p>
	<p>(36)第42回十文字さくらんぼまつりについて</p> <p>6月20日から7月13日にかけて、「第42回十文字さくらんぼまつり」がさくらんぼ樹園地を会場に開催されました。</p> <p>4年連続の豪雪で収穫が心配されましたが、天候に恵まれ例年より一週間ほど早く収穫を迎え、品質も良く例年並みの収穫量でした。さくらんぼ狩りには連日、県内外から多くのお客様が訪れ、たわわに実ったさくらんぼのもぎ取りなどを楽しんでいました。</p> <p>また、期間中は「さくらんぼ杯東北将棋大会」や「第56回十文字マラソン大会兼第29回さくらんぼマラソン大会」及び「第19回さくらんぼタネ飛ばし大会」が開催されました。タネ飛ばし大会には県内外の96人が参加し、一般の部の最長記録は19m20cmで、歴代2位の記録が生まれました。歴代最長記録は20m8cmとなっており、新記録を目指し来年も挑戦を誓う参加者もおりました。</p>
	<p>(37)第36回猩々まつりについて</p> <p>7月26日、「第36回猩々まつり」が十字の里を会場に開催されました。</p> <p>当日は好天に恵まれたことや会場を変更したことなどにより、例年の倍近い3,700人を集客し、地域内の4保育所と幼稚園園児による「よさこい踊り」をはじめ「なまはげ郷神楽」、「ベリーダンス」などが披露されたほか、今年は「猩々おどりコンテスト」が開催されるなど大いに観客を魅了し、横城小町による「よさこい演舞」では、会場一丸で演舞に参加し大いに盛り上がりました。</p> <p>また、地元産のスイカやメロンの試食、地酒の試飲、恒例の麺まきがあり、子供からお年寄りまで楽しんでいただき、今年も熱気あふれる祭りとなりました。</p>
山内地域局	<p>(38)中尊寺ハスの開花について</p> <p>平成22年、中尊寺より藤原氏ゆかりの地として譲り受け、山内筏地区の秀衡街道沿いに植栽した「中尊寺ハス」は、7月6日より開花し始め、開花ピーク時の7月中旬から下旬にかけては、百本を超える花が咲き誇りました。</p> <p>昨年、新たに休耕田を借り受けて拡張整備したハス池でしたが、2年目にしてハス池一面に花を咲かせ、行き交う人を和ませてくれました。</p> <p>「中尊寺ハス」が山内の新名所となり、多くの方々に来訪いただけるよう、今後も維持拡大に努めます。</p>

平成26年6月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
山内地域局	<p>(39)夏のクリーンアップ(夏季道路一斉清掃)について</p> <p>8月3日早朝から、山内地域の国道・県道のほか幹線道路沿線で地域住民総出で「夏のクリーンアップ」を実施しました。</p> <p>これは、地域住民の環境美化に対する意識の高揚を図るため、4月の春のクリーンアップに続き実施したもので、約1,100人の市民が参加し、集められたごみは、可燃ごみ430kg、不燃ごみ230kgに上りました。</p> <p>今後も、地域の環境をより良くするための活動を継続していきます。</p>
	<p>(40)山内地域観光わらび園について</p> <p>5月下旬から7月上旬にかけて、山内地域の2つの観光わらび園が開園され、「黒沢わらび園」では196人が、また、「三又わらび園」では130人が入園し、山内のわらび狩りを楽しみました。入園者は前年より約50人増加しており、元気な地域づくり事業を活用した共同チラシ等のPRの効果が現れたものと思われまます。</p> <p>秋には栽培を希望する農家にわらび苗を配布して、栽培わらびの作付を推進していく予定です。このような活動を通じて地域特産品の生産拡大にも貢献していきます。</p>
大雄地域局	<p>(41)2014大雄サマーフェスティバルについて</p> <p>7月26日、楽天イーグルス スタジアム大雄駐車場において「2014大雄サマーフェスティバル」を開催しました。</p> <p>第28回となる今年は、ホップの毬花を使った「大雄ホッパー大会」、「カブトムシ木登りレース」、お笑いタレントがゲスト出演した「横手かまくらFM公開生放送」、「新沼謙治コンサート」等のイベントのほか、麒麟ビール仙台工場直送のドラフトカーによるビアガーデンが大好評でした。</p> <p>また今回は、今年度末に地区内の田根森小と阿気小を統合し来年度には「大雄小学校」が誕生することから、2校の児童代表による統合セレモニーを行い、「心をひとつに／たねもり・あげ」の文字が浮かび上がる電飾の点灯を行いました。最後には迫力のある鮮やかな花火を打ち上げ、12,000人の来場者に大雄の夏の夜を楽しんでいただきました。</p>
	<p>(42)たいゆう緑花園について</p> <p>県道横手大森大内線沿いに広がる「たいゆう緑花園」が、今年で16年目を迎えました。1.3haの花畑では、6月に定植したベコニア、マリーゴールド、サルビアなど約4万本が8月中旬から満開となり、訪れる方々の心を和ませています。</p> <p>9月7日には、多くの方々に緑花園に親しんでいただくため、押し花体験などが楽しめる「たいゆう緑花園パノラマフェスタ」を開催します。</p>